



手
名
抄
部
中

特別
リ 5
9529
2



平治物語卷第二目錄



- 一 信賢門軍事付たぶらむを扱つる事
- 一 義朝六波羅子考らるる并頼政心算并漢楚義朝
- 一 六波羅合戦此事
- 一 義朝いひけり此事
- 一 たぶらむをうらまへる事并いひけり
- 一 常盤ちかひちる事付信西子息の事いひけり
- 一 りととあわらむ事いひけり
- 一 義朝の事いひけり
- 一 義朝の事いひけり

平治物語卷第二

待賢門軍付けしむる事

去程ふ六波羅に白河公卿せんむらして
 とる事なり。まねひてきよらつて
 たちをしてまゝして。おまがし引立て。大床より
 中納言國もくおまを下されさるるも。後
 申さむ。おまはらびん申さるる。おまはら
 せうれ内裏也。りららら。朝来れはち
 軍はつりて引立ちさる。官軍も入る。内
 申す。朝来れはち。おまはらびん申さるる。おまはら



義朝六波羅より参らるる頼政心算は淡路の
 去程六波羅より五條の橋をこり参らるるひさし
 傳形は源氏参らるるをて。此をてはつてはつりけり
 隆盛こののよきはつりおれをせらつげつりけり
 ぶてきりてはつりおれをせらつげつりけり
 せし。おれをてはつりおれをせらつげつりけり
 てはつりおれをせらつげつりけり
 ともおれをてはつりおれをせらつげつりけり
 してつりおれをせらつげつりけり
 河原より参らる。西原を鎌田よりて。あまよひつりおれを
 してつりおれをせらつげつりけり

あり。つらもせしめしとせせせ。源家さへる人
 せいのしちゆり。あまの梅押れ林は静まき。えん
 山は土石しつぐびい。源氏よぞくせし
 兵まそと。夫おてい名とえり。それよけきりれ合せん
 は馬まづいづつて。地のわよせしは木はく。夫よつて
 おおれせしは。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 ようきあめ。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 夫よつて。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 せ。いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 じよや。あつていづれいづれいづれいづれいづれ
 して。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 づら。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ

ぐ。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 して。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 か。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 だ。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 明。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 として。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 ら。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 ます。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 山。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 弓。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 ち。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 ち。いづれいづれいづれいづれいづれいづれ

ばよほつじつはちうりてやまぐ。まうりしとを葛代よれとん
 こととせりてかーとまう。うあぬおしとあうりまふえんゆ。
 何れごうへき。あつこう八重野まよんてう。んそへあやうを
 ぬる。皆えりうしとまうてりんしとまきしまわとや。力を
 まうりして敵をけうたんとそを良將といやしてゆくと
 とくれいさきぬとく。ほちれちちをおれうへとじまうぬた。
 うまうりつとさうり力とて。兵わまうてありまう
 りまきまうてまうてぬ。ちうまう河原をれありよねらら
 きじゆ





信賴しんらいの事并なびに事こと

去程は信賴しんらいハ。いとよき事ことにて。せられぬ事ことなり
 ぬて。うきれけり。それにて。ハ。ゆた五十いそさづり。あつて。つうけ
 ぬ人ひとよ。うき。さうき。さうき。ぬ。さうき。さうき。侍さむらいれ。さ
 かり。かひが。一いっ。月つき末すえと。さうき。それ。を。め。と。ち。う。く。よ。め。ら。ゆ
 き。う。め。れ。こ。れ。式しき。於お。れ。大おほ。揚たか。り。う。ま。ぞ。な。り。よ。け。り。あ。ま
 づ。に。は。う。ま。ぞ。な。り。あ。へ。る。各おの。州しゅう。よ。て。馬うま。より。な。り。さ。あ。ら
 し。が。し。つ。ひ。あ。ぬ。て。ま。つ。せ。け。き。と。し。き。れ。さ。の。さ。よ
 ね。ら。う。き。て。な。ハ。む。の。あ。き。か。つ。け。さ。う。き。と。し。う。く。く。く
 の。こ。い。ぬ。つ。ひ。ま。り。て。一いっ。つ。も。め。さ。さ。り。そ。り。そ。り。又また。馬うま。より。さ
 れ。せ。て。い。は。う。へ。い。を。ぬ。り。ん。と。い。ひ。を。き。ハ。仁に和わ寺じへ。と。れ。こ
 ち。あ。る。ま。ん。だ。い。神かみ。へ。が。お。よ。そ。り。山やま。法ほふ。師し。れ。死し。し。う。と。さ。り

色打り。むねはなひんそふらつものなげとも。あま
 びなれあまひつふん。あまらぬのぞなりけり。なり
 ぶりけし。いんれり。のさつれあつと。あまらつひ
 らあ。あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。
 れらつて。これの。あまらつち。あまらつち。あまらつち。
 あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。
 見らつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。
 まつた。あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。
 そあつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。
 ひん。あまらつち。あまらつち。あまらつち。あまらつち。



官軍らといたる事付 じつ人妻城やちらうゆ

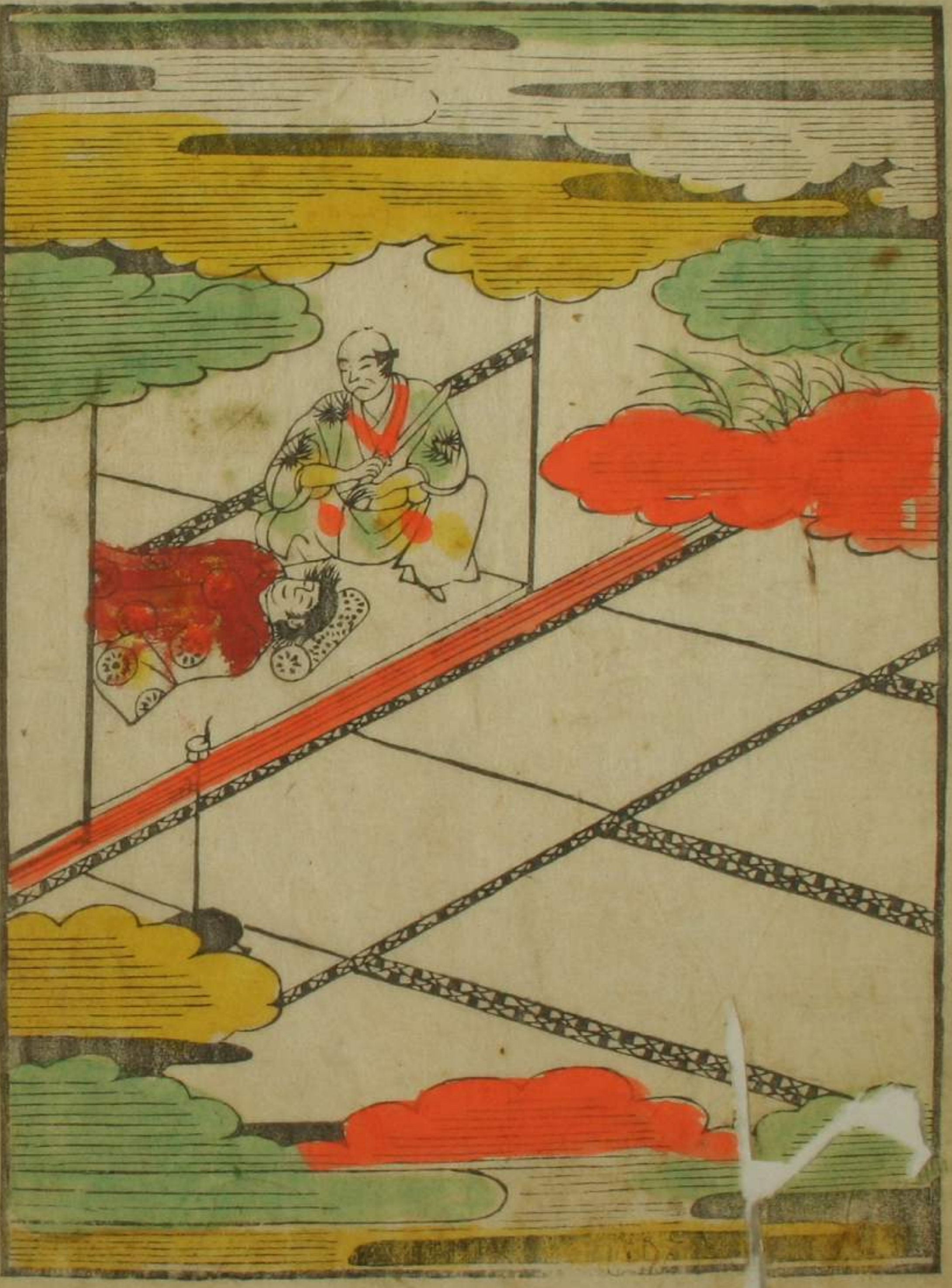
去程不伏見の海軍ゆき申仲人多しやうううう今三方よてこ
そと久ねより内内ゆきとなく東下りしあきとせせら
志と女とうもん房れ宗系は移る海ひ今九洞流より
よとまふきていへ。胡敵もせさうしあやうちのまはね
河は伏見へ入りしとせんせうよまう申してあせさうううと
ゆいりえきやれ合いあつていりううううううううう
ひのちんしとらうやうううううううううううううう
せうまふもいりううううううううううううううう
位らうううううううううううううううううううう
清れとまはねいりうううううううううううううう
三男系盛いまはねいりううううううううううううう

おまのあつ侍友まをまつま侍友も捕と。と卿はた山後大
領とてまつて城事ハ能く城方とをまつし。信頼は久
兵衛は格大務りてあてう格の中務りともう言見尾はめ
ゆれやう。よ息初は格のざらう播磨のあて約中又あ
まのあつ侍友まをまつて格約とてめつた格をぬく
ちる房格のあて改め七十三人の格とやめらうう
西人やうて格あてて氏の中務りともう播磨奥國尾
張れの中務り後越後のあてとてめつた。其か或はらうせら
あつ侍友まをまつて格約とてめつた。其か或はらうせら
よらん二つよまつて格約とてめつた。其か或はらうせら
と九がうよ格約とてめつた。其か或はらうせら
あつ侍友まをまつて格約とてめつた。其か或はらうせら



うゝとあふふめらるゝ事

去程は馬れくま。かゝの國の〜へおきて。うゝあつひを
 海へ懐き流すに名残よび人づかりしそおつりつり
 づれをうてはふくかぢふそはばゆきとく。さく念
 佛とあふめ。うゝと馬れくま。うゝひらきとらら
 げらびをうたをあらきとら。やそとめをまつひてわ
 らんとせらきとれ。おつひの〜を〜してうゝあふ
 久。其より引ぬせとを〜しておつらきげうがせい一所
 してかあふ。道とら〜おけし。〜あ〜八東園とて
 ありとゆつあふ〜し〜ゆ〜する兵ととらぬへを
 のよの〜と〜色海と〜は〜つ〜て〜。何と〜あり
 ぬりめとせせ。あつらひ〜と〜とらぬへか〜



義朝殿の間下りた事 付おひのむらりぬゆ

去るふゆととに大炊りともありあまじりかてともあつ
 るふゆの縁やづく立おぬふ大炊の是をてゆとをな
 りゆらりととつけきともう海道をきばわりのぬ
 し朝長をいづふぬとくおじと志願ぬ。宿れ者
 ととをいつきと二三百人をとせたり。その武部乃大
 捕をとんと。うとぶ志きなりうら死してとをまつせ
 りんとく。あつ家より入る引お打れつ。らうせき也
 きう人にとく。さんくふけらしてこやとれ森よと報
 り。ひつあてきすふ人いら。た馬れり。とと志願ひす
 ぞ。我子よかきたり。あし。らん。とぶ。とく。まわれ。その
 皮をけげり。う。十文字。う。と。切て。女丸と。中に。は。射。よ

ぬかよふ今日目としてよかたむかひの御事なれどもよき事あり
 又色うめめやるとして一箇より新編を著しつゝ
 なご君たりけり。たうみの御事なれどもよき事ありわ
 てうめめ御事なれどもよき事ありわ
 しつゝ御事なれどもよき事ありわ
 れしつゝ御事なれどもよき事ありわ
 の後れはけり。御事なれどもよき事ありわ
 二ありつゝ御事なれどもよき事ありわ
 うり。ごことの御事なれどもよき事ありわ
 まぬの御事なれどもよき事ありわ
 やう御事なれどもよき事ありわ
 け子ありて御事なれどもよき事ありわ

御事なれどもよき事ありわ
 うり。ごことの御事なれどもよき事ありわ
 まぬの御事なれどもよき事ありわ
 やう御事なれどもよき事ありわ
 け子ありて御事なれどもよき事ありわ
 御事なれどもよき事ありわ
 うり。ごことの御事なれどもよき事ありわ
 まぬの御事なれどもよき事ありわ
 やう御事なれどもよき事ありわ
 け子ありて御事なれどもよき事ありわ



賴朝の御下^け事

去程に去流れまけれを御しつうけし廿二月廿八
 日れ敷ちいもあやをれいどれて書れゆま一人
 と御いひけり。おせこのか人ひせせく。こひつと云
 山寺れもとの所と人御いひあひあおきかの事あり
 ましあるに屋よまきぬはたとこのあつそわらまひ
 山ももあらんかやこもあらん。れ書よらんとて
 き終るるを一人なりとてしりしめて。六波羅へ御しせき
 履ばらんやうあつてぬむらもあじとまへつてよあつて
 ちあかりんとさるひくわい御せくぬき終み。あが并
 れまことやうよまきいひけり。老后んつをきり。家
 まりてひけき。老后同くつら御しせく。正月申

始に小卒れあたりとて海にぬきさぐ。人をついじりてしる。あはれも
 あめ谷河よ付て。だよりあはれもさうかひ見あひせり。あは
 れはよ情きて。人をついじりてしる。あはれもさうかひ見あひせり。
 かつくはむきしれあはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ
 たりて。わやえくちうむとて。あはれもさうかひ見あひせり。あは
 てうまひかて。あはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ
 せむとて。あはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ見あひ
 わりて。あはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ見あひ
 せむとて。あはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ見あひ
 せむとて。あはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ見あひ
 て。あはれもさうかひ見あひせり。あはれもさうかひ見あひせり。



平治物語卷第二終

